

# 韓国語の「동안 tongan」と「사이 sai」で 表される時間的な幅について

趙 英恩

## 1. はじめに

複文では、さまざまな接続語によって従属節の出来事と主節の出来事間の相関関係が表される。中でも、従属節で表される時間において主節の出来事が行われるといった状況を表す複文において、韓国語では次のように「동안 tongan<sup>1)</sup> / 동안에 tongan-ey」「사이 sai / 사이에 saiey」「중에 cwungey」「틈에 thum-ey」など、一定の時間的な幅を表す形式名詞、またはそれに助詞「-에 ey」が結合したものが接続語として多く用いられている<sup>2)</sup>。

- (1) 강의 내용과는 상관없는 이야기가 계속되고 있는  
kanguy nayyongkwanun sangkwan-epsnun iyakika kyeysoktoyko issnun  
{동안 (에) / 사이 (에) / 중에 / 틈에} 점점 잠에 빠졌다.(作例)  
{tongan(ey) / sai (ey) / cwungey / thum-ey} cemcem cam-ey ppacyessta  
講義の内容とは関係ない話が続いているあいだ、徐々に眠りに落ちた。

これらの表現は形式名詞がその中心であるという点から、一般名詞を中心とする表現に比べ、意味や用法が抽象的であるという特徴を持つ。また、単独では用いられず先行する表現を必ず要求するため、その先行する表現の種類や意味がこれらの表現の意味や用法、または文の容認度に大きな影響を及ぼすこととなる。

このような特徴は、学習者にとってこれらの表現の習得を難しくする要因となり、各表現の意味や用法を明らかにすることで各表現に対する理解や習得に役立つことが期待される。

中でも「동안 tongan」および「사이 sai」は、時間的な幅を表す他の表現に比べて使用頻度が非常に高く、学習項目としての重要性が認められている。次の(2)と(3)で分かるように、この2つの表現は他の表現とは異なり、助詞「-에 ey」と結合した形だけでなく形式名詞単独でも従属節を成すことができる点や、時間的な幅を表す用法では指定詞「-(이 i) 다 ta<sup>3)</sup>」との組み合わせで主節の述語として用いられることが稀である点など、統語的な面でも共通点が観察されており、類義語として共に扱われ

ることが多くある。

- (2) 강의 내용과는 상관없는 이야기가 계속되고 있는  
kanguy nayyongkwanun sangkwan-epsnun iyakika kyeyesoktoyko issnun  
{동안(에) / 사이(에) / \*중 / 중에 / \*틈 / 틈에} 점점 잠에  
{tongan(ey) / sai(ey) / cwung / cwungey / thum / thum-ey} cemcem cam-ey  
빠졌다.(作例)  
ppacyessta  
講義の内容とは関係ない話が続いているあいだ、徐々に眠りに落ちた。

- (3) 지금 강의가 진행되고 있는 { \*동안 / \*사이 / 중 / \*틈 } (이) 다.  
(作例)  
cikum kanguyka cinhayngtoyko issnun { tongan / sai / cwung / thum } (i) ta  
今講義が行われているところだ。

しかし、次のような文では「사이 sai」は用いられるが「동안 tongan」を用いることはできず、二つの表現で表される時間的な幅が完全に一致するわけではないことが分かる。その上、助詞「-에 ey」の有無も文の容認度に影響を与えていることが確認できる。

- (4) 다른 생각에 정신을 파는 { \*동안 / 동안에 / 사이(에) } 강의가  
talun sayngkak-ey cengsin-ul phanun { tongan / tongan-ey / sai(ey) } kanguyka  
끝났다.(作例)  
kkuthnassta  
他の事を考えているあいだに、講義が終わった。

このようなことを踏まえ、本稿では韓国語の「동안 tongan」と「사이 sai」の使い分けの基準を分析し、各表現で表される時間的な幅の特徴を明らかにする。その上、助詞「-에 ey」の付加によって各表現で表される時間的な幅がどのように変化するかにについても考察する。

## 2. 先行研究および本稿の位置づけ

先述のように「동안 tongan」と「사이 sai」は辞書や学習書などで類義語として取り上げられることが多く見られている。

まず、임홍빈 イムホンビン (1993) では、「동안 tongan」は一定の時間的位置から次のある時間的位置に至るまでの時間的長さや間隔 (←사이 sai)<sup>4)</sup> を、「사이 sai」は時間上の一つの点から他の点に至るまでの距離を表すとされている。また、「사이 sai」が空間的・時間的に離れている二つの点の間 (←사이 sai) にある部分や距離を意

味し、二つの対象の間(←사이 sai)でもたらされる関係に対しても使われるのに対し、「동안 tongan」はある出来事が継続する時間を表し、空間や個体の間(←사이 sai)の関係を意味することはできないと指摘している。

次に、국립국어원 国立国語院(2005)は、現在を表す語尾「-는 nun」と結合した「-는 nun 동안 tongan」および「-는 nun 사이 sai」を表題語とし、「-는 nun 동안 tongan」はある行為や状態が継続する時間であることを、「-는 nun 사이 sai」はある行為や状態が起こる中の短い時間であることを表すとしている。また、両者とも「-에 ey」が後続する「-는 nun 동안에 tongan-ey」「-는 nun 사이에 saiey」の形で同じ意味を表すと述べている。その上、「-는 nun 동안 tongan」はある行為や状態が継続する時間中、他の出来事が行われることを表すのに対し、「-는 nun 사이 sai」はある行為や状態が起こる中の短い時間に他の出来事が行われることを表すとし、時間的な幅を表す用法においての両者の違いについても言及している。

なお、백봉자 ペクボンジャ(2006)では、「-(으 u)ㄴ n /는 nun 동안 tongan(에 ey)」および「-(으 u)ㄴ n /는 nun 사이 sai(에 ey)」を表題語とし、過去を表す語尾「-(으 u)ㄴ n<sup>5)</sup>」も両表現に先行する形態として取り上げている。「-(으 u)ㄴ n /는 nun 동안 tongan(에 ey)」は、動作動詞の後に用いられてある時からある時までの時間的な間隔(←사이 sai)を表し、「-(으 u)ㄴ n /는 nun 사이 sai(에 ey)」は動作動詞の後に用いられてある行為を行う間(←동안 tongan)に後行節が実行されることを表すと述べている。

しかし、これらの記述では両表現が相互の意味の説明のために使われているなど、両表現の意味や相違点を明確に規定するには至っていないように思われる。また、「동안 tongan」および「사이 sai」の先行する表現が用言の「-는 nun」や「-(으 u)ㄴ n」に限られており、その他の表現との結合の様相が説明できていない。また、前述の用例(4)のように助詞「-에 ey」の有無によって文の容認度が変化するような文が存在することから、「-에 ey」の有無による両表現の意味の変化についても再考の必要があると考えられる。

一方、「동안 tongan」と「사이 sai」を分析の対象とし、その類似点や相違点について考察した先行研究としては、유현경 ユヒョンギョン(2007)、한혜정 한ヘジョン(2009)、홍달오 ホンダルオ・엄홍준 オムホンジュン(2012)などがある。

まず、유현경 ユヒョンギョン(2007)では、「사이 sai」の意味は大きく「空間的意味」「関係的意味」「時間的意味」の三つに分けられ、中でも「時間的意味」を表す際に「동안 tongan」と類似関係を成し、その場合、「사이 sai」はある時点から他の時点のあいだに存在する一つの時点、または、あることを行うためにかける時間的な短い距離を、「동안 tongan」はある時点から他の時点にいたる期間全体、または、あることを行うためにかける時間的な長い距離を表すと述べられている。また、語彙の意味は文の中で共に用いられる他の構成要素との結合関係によって具体的に現れるとし、「사이 sai」と「동안 tongan」の意味情報に加え、その先・後行要素といった結合情報をコーパスを用いて分析している。

しかし유현경 ユヒョンギョン(2007)では、「空間的意味」「関係的意味」「時間的

意味」を表す「사이 sai」を全て分析対象として扱ったため、「동안 tongan」と均等な条件での比較・対象が不可能であったと考えられる。また、両表現の意味と先・後行要素との結合情報がどのような関連性を持っているかについての明確な議論がなされていないことも問題として残る。

次に、한혜정 ハンヘジョン (2009) では、コーパスを用いて「동안 tongan」および「사이 sai」の先行節をテンスを表す連体形語尾「-(으)ㄴ」 「-는 nun」 「-(으)ㄴ」 「-던 ten」に分類した上、さらに最も結合の割合の高い「-는 nun」で表される時間の長さを「期間の全体」「期間の一部」「期間の一時点」「実在しない期間」に分けて両表現との共起の様相を分析している。その結果として、全体的な期間を表す場合は「동안 tongan」との共起が自然であるのに対し、部分的な期間を表す場合には両表現とも共起可能であるが、話者がその期間が長いと判断する場合には「동안 tongan」を、短いと判断する場合には「사이 sai」を使用するということが述べられている。また、実在しない期間の場合は「동안 tongan」より「사이 sai」と共起しやすいと指摘している。

しかし、한혜정 ハンヘジョン (2009) では両表現に後行する表現については分析がなされなかった上に、先行する表現についても動詞のみを分析の対象としている点で、両表現と共起する表現の特徴を一部しか説明することができなかったと考えられる。

最後に、홍달오 ホンダルオ・엄홍준 オムホンジュン (2012) では、「동안 tongan」は特定の事件の始点と終点の間(←사이 sai)の内部の長さに焦点を当て、「사이 sai」はその始点と終点自体に焦点を当てるような表現であると指摘した上、コーパスを用いて両表現と結合する先行詞および後行詞を分析している。その結果として、「+持続性」の目立つ先・後行詞は「동안 tongan」とのみ結合し、「+完了性」「+単発性」の強い表現は「사이 sai」と結合する一方、先行詞が「+持続性」であり後行詞が「+完結性」「+単発性」「+状態変化」である場合には「동안 tongan」と「사이 sai」の両方と結合すると指摘している。

홍달오 ホンダルオ・엄홍준 オムホンジュン (2012) は、両表現の先・後行詞として様々な品詞の表現を取り上げて分析しているという点で参考に値するが、先・後行詞の特性を規定する基準が設けられていない状態で分類が行われており、分類基準の客観性について疑問が残る。また、他の先行研究と同様、助詞「-에 ey」有無による両表現の意味の変化についての言及がなく、用例においても助詞「-에 ey」が付いている表現とそうでない表現が混在している。

時間的な幅の特徴を明らかにするには、その幅の境界線の特徴、つまり従属節で表される時間の特徴と、幅の中の部分の特徴、つまり主節で表される出来事の特徴の両方を明らかにしなければならない。言い換えると、一部の先行研究においてすでに指摘されているように、両表現に先行する要素(以下、先行要素と呼ぶ)と主節の述部(以下、後行述部と呼ぶ)の特徴が両表現で表される時間的な幅の特徴を規定するということになる。

以上を踏まえ、本稿では実際の用例をもとに韓国語の「동안 tongan」および「사이 sai」と共起する先行要素・後行述部の特徴を分析し、両表現がどのような基準で使い分けられているかを分析する。そのような分析から各表現の表す時間的な幅の特徴を

明らかにした後は、助詞「-에 ey」の付加によって各表現の表す時間的な幅がどのように変化するかについて考える。

### 3. 分析方法

本研究では、「21世紀セジョン計画最終成果物修正版(2010年12月製作)」の現代書き言葉生コーパスを元に「ハンマル直接検索機」を利用して「동안 tongan」「동안에 tongan-ey」「사이 sai」「사이에 saiey」が用いられた文を検索した結果から、各表現が時間的な幅を表す表現として用いられた文をそれぞれ500文ずつランダム抽出したものを用例として用いる。その際、「그동안 kutongan その間」「밤사이 pamsai 夜の間」など、各表現を修飾する要素と各表現の連続が一つの語として認められている場合は分析の対象から除外した。

その後、「동안 tongan」または「사이 sai」が用いられた各用例において、「동안 tongan」を「사이 sai」に、または「사이 sai」を「동안 tongan」に置き換えた文が「置き換え不可能」「置き換えると不自然」「置き換え可能」の中、どちらに該当するかを韓国語母語話者3人(全員20代女性)に判断してもらい、「동안 tongan」と共起し易い先行要素・後行述部、「사이 sai」と共起し易い先行要素・後行述部、また「동안 tongan」と「사이 sai」の両方と共起する先行要素・後行述部の特徴を分析した。

各表現の先行要素は、それぞれの表現で表される時間的な幅の始点および終点を提示するものであるため、基本的には時間との関わりがうかがえるようなものに限定されると予想される。本稿ではその時間の性質をもとに、次のように先行要素を分類する<sup>7)</sup>。

表1. 各表現の先行要素の分類

名詞	期間名詞: 一定の時間的な境界線を持つ出来事を表す 例) 「수업 swuep 授業」「방학 panghak 休み」
	限定無し数名詞: 期間の表示において数字が単独で用いられる 例) 「하루 halwu 一日」「십 년 sip nyen 10年」
	限定有り数名詞: 数字で表される期間を更に限定する表現を伴う 例) 「지난 한 주 cinan hancwu これまでの1週」 「최근 몇 년 choykun myechnyen 最近の数年」
	範囲名詞: 時間を表す語彙が二つ用いられるが、二つの語彙が時間の幅の始点と終点ではなく、後行述部で表される出来事が行われる時間の幅の候補である 例) 「하루 이틀 halwu ithul 一日二日」「1~2년 il inyen 1~2年」
	境界名詞: 時間の幅の始点と終点が両方表される 例) 「7~9월 chil-wel-eyse kwuwel 7~9月」 「작년부터 올해 caknyenpwuthe olhay 昨年从今年」
動詞	肯定 動詞ㄴ n 形、動詞ㄴ nun 形、動詞ㄹ l 形
	否定 動詞ㄴ n 形否定、動詞ㄴ nun 形否定、動詞ㄹ l 形否定
存在詞	肯定 存在詞ㄷ ten 形、存在詞ㄴ nun 形、存在詞ㄹ l 形
	否定 存在詞ㄷ ten 形否定、存在詞ㄴ nun 形否定、存在詞ㄹ l 形否定
形容詞	肯定 形容詞ㄷ ten 形、形容詞ㄴ n 形、形容詞ㄹ l 形
	肯定 形容詞ㄷ ten 形否定、形容詞ㄴ n 形否定、形容詞ㄹ l 形否定
指定詞	肯定 指定詞ㄷ ten 形、指定詞ㄴ n 形、指定詞ㄹ l 形
	否定 指定詞ㄷ ten 形否定、指定詞ㄴ n 形否定、指定詞ㄹ l 形否定

これらの先行要素を時間的な幅の始点と終点の表し方という観点から考えてみると、名詞に関しては始点と終点の両方がいつであるかを示している境界名詞が最も明確であると考えられる。一方、数名詞および範囲名詞は始点と終点があるかは示さず、始点と終点の間の時間的な長さだけを表すような表現である。その中では、限定表現を用いて付加的な情報を提示する限定有り数名詞がより明確に始点・終点を表す表現であり、時間の幅の長さの候補を2つ提示する範囲名詞は限定無し数名詞より明確でない情報を提供しているように思われる。また、期間名詞は始点と終点があるかはもちろん、始点と終点のあいだの時間的な長さも示していないという点で最も不明確な表現である。言い換えると、期間名詞<範囲名詞<限定無し数名詞<限定有り数名詞<境界名詞の順で時間的な幅の始点と終点の明確さが増していると言えよう。

用言に関しては、過去の出来事を表す表現の場合、発話時においてすでに実現している出来事を表すため、その始点と終点は言語的には表されていないものの、事実として確実に存在していると考えられる。それに対し、未来の出来事を表す表現の場合は、発話時において未実現であるということから、時間的な幅の始点と終点の両方が固定されていない。また、現在の出来事を表す表現においては始点だけが固定されていると言うことができる。

一方、各表現の後行述部は、時間的な幅の中で行われる出来事の性質を表すものであるため、その出来事の性質をもとに、次のように分類を行う。便宜上、各後行述部の例として述語の基本形を提示しているが、本稿の分析においては、各用例の述部全体を後行述部として扱う上、述語の辞書的な意味ではなくそれぞれの用例における出来事の性質を分類の基準とする。

表2. 各表現の後行述部の分類

動作性			
無	有		
	変化		
	無	有	
		到達点	
無	有	無	有
状態述部:「速く」など動作の速度を表す表現と共起不可能 例)「학생이다 haksayngita 学生だ」	活動述部:「段々」など変化の進行の程度を表す表現と共起不可能 例)「공부하다 kongpwhata 勉強する」	変化述部:「ついに」「すでに」など到達点の存在を含意する表現と共起不可能 例)「자라다 calata 育つ」	達成述部 例)「자르다 caluta 切る」

最後に、「동안 tongan」と「동안에 tongan-ey」および「사이 sai」と「사이에 saiey」の置き換え可能性を調査した結果から、「동안에 tongan-ey」および「사이에 saiey」と共起しやすい先行要素・後行述部の特徴を分析し、助詞「-에 ey」の付加によって両表現の表す時間的な幅がどのように変化するかについて考察する。

## 4. 分析結果

### 4.1. 先行要素による「동안 tongan」と「사이 sai」の使用の制約

収集した各用例における「동안 tongan」と「사이 sai」の先行要素を調べて分類したところ、次のような結果が得られた。

表3. 用例における「동안 tongan」と「사이 sai」の先行要素

	名詞					動詞						存在詞			形容詞	指定詞	合計	
	期間	限定無し数	限定有り数	範囲	境界	肯定			否定			肯定						否定
						ㄴ n	는 nun	ㄹ l	ㄴ n	는 nun	ㄹ l	던 ten	는 nun	ㄹ l				
동안 tongan	81 16.2%	175 35.0%	24 4.8%	11 2.2%	-	1 0.2%	196 39.6%	6 1.2%	-	1 0.2%	-	-	3 0.6%	2 0.4%	-	-	-	500 100%
사이 sai	6 1.2%	13 2.6%	70 14.0%	50 10.0%	58 11.6%	97 19.4%	179 35.8%	13 2.6%	1 0.2%	2 0.4%	-	2 0.4%	9 1.8%	-	-	-	-	500 100%

このような結果をもとに、まずは「동안 tongan」と共起しやすい先行要素がどのような特徴を持っているかについて分析する。

まず名詞の中では、期間名詞および限定無し数名詞は主に「동안 tongan」と共起し、その時の「동안 tongan」を「사이 sai」に置き換えると文の容認度が落ちることが多い<sup>8)</sup>。

- (5) 촬영 기간 {동안 / \*사이} ‘이러다가 시집 갈 수 있을까?’ 등  
 chwal-yeng kikan {tongan / sai} iletaka sicip kal swu iss-ulokka tung  
 만감이 교차하기도 했지만 일단 촬영에 들어가면 주저하지  
 mankam-i kyochahakito hayssciman iltan chwal-yengey tul-ekamyen cwucehaci  
 않았다.

anh-assta

撮影期間のあいだ、「こんなことしていて結婚もできなくなるのではないか」などと万感が交差したりもしたが、一旦撮影に入るとためらわなかった。

- (6) 이 식단을 시행한다면 1주일 {동안 / \*사이} 무려  
 i siktan-ul sihaynghantamyen ilcwuil {tongan / sai} mwulye  
 28개의 달걀을 먹어야 한다.  
 sumwul-yetelpkayuy talkyal-ul mek-e-ya hanta  
 この献立通りにすると、一週間のあいだになんと28個の玉子を食べなければならない。

しかし、収集した用例の中には次のように期間名詞や限定無し数名詞が「사이 sai」の先行要素として用いられた文も存在している。

(7) 우유빛 안개 속에 비처럼 맑은 건물들이 하룻밤 {? 동안 / 사이} wu-yupich ankay sok-ey pichek malun kenmwultul-i halwuspam { tongan / sai} 땅에서 돌아난 버섯처럼 흥물스레 보였다.  
 ttangeyse tot-anan peseschelem hyungmwulsuley po-yessta  
 乳白色の霧の中でげっそりとやせた建物が、一晚のあいだに土から生えてきたキノコのように醜く見えた。

(8) 일주일 {동안 / 사이} 양파는 22.9%, 생강은  
 ilcwuil {tongan / sai} yangphanun isip-icemkwupheseynthu sayngkangun  
 29.8% 상승한 것으로 나타났습니다.  
 isipkwucemphalheseynthu sangsunghan kes-ulo nathanassupnita  
 一週間のうちに、たまねぎは22.9%、生姜は29.8%上昇したことが分かりました。

まず、期間名詞が「사이 sai」の先行要素として用いられた用例を見ると、その期間名詞は「하룻밤 halwuspam 一晚」および「어젯밤 eceyepam 昨夜」といった表現に限られている。韓国語で「밤사이 pamsai 夜の間」という表現が一つの語として定着していることから、「밤 pam 夜」で終わる期間名詞は例外的に「사이 sai」と結合しやすいのではないかと思われる。

また、「사이 sai」の先行要素として用いられた限定無し数名詞は、特定の時期を表すという共通点を持っている。つまり、(6)の「1주일 ilcwuil 一週間」が時間的な長さとしての一週間をさしているのに対し、(8)の「일주일 ilcwuil 一週間」で表される期間は、文には明示されていないが、ある時点からその一周間後の時点までの特定の時期を表している。このようなことから、形式的には限定無し数名詞でありながらも、意味的には限定有り数名詞と同様であるような表現は、「사이 sai」とも共起する可能性が高くなると言えよう。

一方、用言の場合、未来の出来事を表す動詞・存在詞のㄷㄹ形は「동안 tongan」の先行要素として用いられるのが一般的である。

(9) 묘향산을 다녀올 {동안 / \*사이} 기화는 조용한 객사 잡아 놓고  
 myohyangsang-ul tanyeol {tongan / sai} kihwanun co-yongghan kayksa cap-a nohko  
 평양 구경이나 하면 되는 게야.  
 phyengyang kwukyengina hamyen toynun keyya  
 ミョヒャン山に行ってくるあいだ、キファは静かな客舎を取っておいてピャンヤンの見物でもすればいいのさ。

(10) 이 마을에 있을 {동안 / \*사이} 또 어떤 끔찍한 일을 당할지도  
 i mauley issul {tongan / sai} tto etten kkumccik-han il-ul tanghalcito  
 모르고...  
 moluko

この町にいるあいだに、またどんな酷いことをされるかも知れないし…

一方、用例の中では動詞・存在詞のㄷ1形に「사이 sai」が後続する文も見られてはいるが、全てが(11)のように「눈 깜짝할 nwun kkamccak-hal 瞬く」やその類似表現であった。

- (11) 바퀴벌레가 기어 다니던 가게가 눈 깜짝할 [\*동안 / 사이]   
 pakhwipelleyka kie taniten kakeyka nwun kkampak-hal { tongan / sai}   
 최첨단 감각으로 단장된다.   
 choychemtan kamkak-ulo tancangtoynta   
 ゴキブリが這いずっていた店が瞬く間に最新感覚で装飾される。

このようなことは、「사이 sai」が「눈 깜짝하다 nwun kkamccak-hata 瞬く」のㄷ1形と結合して「눈 깜짝할 사이 nwun kkamccakhal sai 瞬く間に」という無意識性・非意図性を表す慣用表現を成すことに起因し、この場合のㄷ1形は実際の未来の出来事を表すわけではないという点で、(9) (10) のㄷ1形とは異なる。

次に、「사이 sai」とのみ共起し、「동안 tongan」とは共起し難い先行要素について考える。名詞の中では境界名詞、用言の中では過去連体形である動詞ㄴn形および存在詞ㄷten形が先行要素として用いられた用例では、「사이 sai」が用いられ、それを「동안 tongan」に置き換えることができない。

- (12) 86년~90년 [\*동안 / 사이] 땅값과 주가가   
 phalsip-yuknyen-eysekwusipnyen { tongan / sai} ttangkapskwa cwukaka   
 2,3배 가량 폭등했다.   
 twuseypay kalyang phoktunghayssta   
 86年~90年のあいだに、地価と株価が2、3倍ほど暴騰した。

- (13) 평소 나의 신체적 약점을 놀리던 장씨가 술이 취해 잡든   
 phyengso nauy sincheycek yakcem-ul nolliten cangssika swul-i chwhihay camtun   
 [\*동안 / 사이] 혼자서 창문 밖으로 던져 숨지게 했다.   
 { tongan / sai} honcase changmwun pakk-ulo tencye swumcikey hayssta   
 日頃私の身体的な弱点をからかっていたチャン氏が酔っ払って寝ているあいだに、一人で窓の外へ投げて殺した。

- (14) 그가 지구 반대편에 있던 [\*동안 / 사이], 관계의 틈은 더욱   
 kuka cikwu pantayphyen-ey issten { tongan / sai} kwankyeyuy thumun tewuk   
 벌어지기만 했다.   
 pelecikiman hayssta   
 彼が地球の反対側にいるあいだ、二人の間の隙間はもっと広がるばかりだった。

しかし収集した用例の中、動詞ㄴ n 形が「동안 tongan」と共起する文も 1 文だけではあるが存在している。

- (15) 미국으로 남편이 출장\_\_\_\_\_간 {동안 / 사이} 더욱 조신하게  
mikwuk-ulo namphyen-i chwulcang kan {tongan / 사이} tewuk cosinhakey  
지내야 된다며 나를 잘 안 만나 주는 현모양처 CH.  
cinayya toyntamye nalul cal an manna cwunun hyenmo-yangche ssieyichi  
アメリカへ夫が出張に行っているあいだ、もっと慎ましく過ごすべきだと、私  
にあまり会ってくれない良妻賢母 CH。

次の (16) で「출장 간 chwulcang kan」の後に「동안 tongan」が用いられないことから分かるように、(15)において動詞ㄴ n 形の後に「동안 tongan」が用いられるのは、「출장 가다 chwulcang kata 出張に行く」という動詞単独ではなく、後行述部の性質や先行要素と後行述部との相関関係に起因するものであると考えられる。言い換えると、基本的に動詞ㄴ n 形は「사이 sai」と共起し易いが、後行述部によって「동안 tongan」が好まれる環境が整えられると、「동안 tongan」とも共起することがあるのではないかと予想される。

- (16) 미국으로 남편이 출장\_\_\_\_\_간 { \*동안 / 사이} 부인이 차를 샀다.  
(作例)

mikwuk-ulo namphyen-i chwulcang kan { tongan / sai} pwin-i chalul sassta  
アメリカへ夫が出張に行っているあいだに、妻が車を買った。

一方、用例の中では文中の「동안 tongan」を「사이 sai」に、または「사이 sai」を「동안 tongan」に置き換えても文の容認度に変化が見られない文も存在する。そのような文を分析してみると、特に限定有り数名詞および範囲名詞、また、動詞・存在詞の現在連体形であるㄴ nun 形が各表現の先行要素として用いられていることが目立つ。

- (17) 지난 15년 {동안 / 사이} 환경에 대한 국민 의식이 크게  
cinan sip-onyen {tongan / sai} hwankyengye tayhan kwukmin uysik-i khukey  
달라졌습니다.  
tallacyessupnita

これまでの 15 年のあいだに、環境に対する国民意識が大きく変わりました。

- (18) 사업의 규모는 5 ~ 6년 {동안 / 사이} 몰라보게 확장되었다.  
saep-uy kyumonun o-yuknyen {tongan / sai} mollapokey hwacangtoyessta  
事業の規模は 5 ~ 6 年のあいだに見違えるほど拡張した。

(19) 남편이 나가 있는 {동안 / 사이} 난 두 편의 영화를 봤다.  
 namphyen-i naka issnun {tongan / sai} nan twu phyen-uy yenghwulul pwassta  
 夫が出かけているあいだに、私は2本の映画を見た。

(20) 김서방 없는 {동안 / 사이} 뒤체에 일어난 풍파는 자기하고  
 kimsepang epsnun {tongan / sai} twichayey il-enan phwungphanun cakhako  
 하등 상관도 없는 듯 태평스럽게 하품이 늘어진다.  
 hatung sangkwanto epsnun tus thayphyengsulepkey haphwum-i nul-ecinta  
 キムソバンがいないあいだに離れで起きた波風は自分とは何の関係もないみたい  
 に、のんきにあくびを連発する。

ただし、次のように無意識的・非意図的な出来事を表す用言の는 nun 形は「사이 sai」とのみ共起し、その「사이 sai」を「동안 tongan」に置き換えることはできない。

(21) 그러나 주화의 가슴에는 그녀도 모르는 { \* 동안 / 사이 } 하나의 싹이  
 kulena cwuhwaury kasum-eynun kunyeto molunun { tongan / sai } hanauy ssak-i  
 돌아나고 있었다.  
 tot-anako iss-essta  
 しかしジュファの胸には、彼女も気づかないうちに一つの芽が生えていた。

動詞≡1形の場合も含めて考えると、無意識性・非意図性を表す表現の後には、「사이 sai」が用いられ易いと言えよう。

以上をまとめると、「동안 tongan」は期間名詞、限定無し数名詞、動詞・存在詞の≡1形と共起し易いのに対し、「사이 sai」は境界名詞、動詞ㄴ形、存在詞던 ten 形と共起し易いことが分かる。一方、限定有り数名詞、範囲名詞、動詞・存在詞の는 nun 形は両表現と共起する。

このようなことを3章で議論した各先行要素で表される時間的な幅の始点と終点の明確度と比較すると次のようになる。

表4. 先行要素の特徴と各表現との共起の様相

		低-----時間的な幅の始点および終点の表示の明確度-----高				
名詞	期間名詞	範囲名詞	限定無し数名詞	限定有り数名詞	境界名詞	
		동안 tongan	동안 tongan 사이 sai	동안 tongan	동안 tongan 사이 sai	사이 sai
用言	未来連体形		現在連体形		過去連体形	
	동안 tongan		동안 tongan / 사이 sai		사이 sai	

表4から、範囲名詞を除くと、時間的な幅の始点および終点を明確に表示しない先行要素は「동안 tongan」と共起し易く、時間的な幅の始点および終点を明確に表示する先行要素は「사이 sai」と共起し易いことが分かる。また、始点および終点の表示の明確度が中間的な先行要素は「동안 tongan」と「사이 sai」の両方と共起する。

意味的には限定無し数名詞より始点および終点の表示の明確度の低い範囲名詞が「동안 tongan」と「사이 sai」の両方と共起可能なのは、時間に関する表現が複数提示されることにより、形態的に境界名詞と類似することと関係があるのではないかと予想されるが、この問題については更なる検討が必要であろう。

#### 4.2. 後行述部による「동안 tongan」および「사이 sai」の使用の制約

各用例における「동안 tongan」と「사이 sai」の後行述部を表にまとめると、次のようになる。

表5. 用例における「동안 tongan」および「사이 sai」の後行述部

	状態述部	活動述部	変化述部	達成述部	合計
동안 tongan	168 33.6%	194 38.8%	65 13.0%	73 14.6%	500 100%
사이 sai	60 12.0%	28 5.6%	153 30.6%	259 51.8%	500 100%

まず、「동안 tongan」は状態述部および活動述部と共起する割合が高く、その多くの場合、「동안 tongan」を「사이 sai」に置き換えることはできない。

- (22) 그의 이야기를 듣는 {동안 / \*사이} 나는 줄곧 깊은 무력감에  
 kuuy iyakilul tutnun {tongan / sai} nanun cwulkot kiph-un mwulyek-kam-ey  
빠져 있었다.  
 ppacye iss-essta  
 彼の話を聞いているあいだ、私はずっと深い無力感に陥っていた。

- (23) 지난 십수 년 {동안 / \*사이} 근무한 회사였다.  
 cinan sipswu nyen {tongan / sai} kunmwuhan hoysayessta  
 これまでの十数年のあいだ、勤務した会社だった。

次の (24)a や (25)a のように、状態述部や活動述部が用いられる用例の中でも、「사이 sai」とのみ共起し、その「사이 sai」を「동안 tongan」に置き換えると文の自然度が落ちるような文が存在する。しかし (24)b や (25)b との比較で分かるように、そのような問題は先行要素が「동안 tongan」と共起し難い表現であることに起因しており、「동안 tongan」と「사이 sai」の両方と共起可能な先行要素が用いられた場合には、後行述部として状態述部や活動述部が用いられると「동안 tongan」の使用がより自然である。

- (24) a. 저도 모르는 {\*동안 / 사이} 그의 얼굴만이 뇌리에 가득했다.  
 ceto molunun { tongan / sai} kuuy elkwulman-i noyliey katuk-hayssta  
 自分も気づかないうちに彼の顔だけが脳裏を埋め尽くしていた。  
 b. 그리고 있는 {동안 / ?사이} 그의 얼굴만이 뇌리에 가득했다. (作例)  
 kuleko issnun {tongan / sai} kuuy elkwulman-i noyliey katuk-hayssta

そうしているあいだ、彼の顔だけが脳裏を埋め尽くしていた。

- (25) a. 내가 외출한 { \*동안 / 사이 } 두 동생을 돌보는 첫째.  
 nayka oychwulhan { tongan / sai } twu tongsayngul tolponun chesccay  
 私が外出しているあいだ、二人の弟 [妹] の世話をする長男 [長女]。  
 b. 내가 외출해 있는 { 동안 / ?사이 } 두 동생을 돌보는  
 nayka oychwulhay issnun { tongan / sai } twu tongsayngul tolponun  
 첫째. (作例)  
 chesccay  
 私が外出しているあいだ、二人の弟 [妹] の世話をする長男 [長女]。

一方、「사이 sai」の後行述部としては達成述部が用いられることが多く、そのような用例においては基本的に「사이 sai」を「동안 tongan」に置き換えると文の容認度が落ちる。

- (26) 그간의 쌓인 이야기를 나누는 { ?동안 / 사이 } 버스는 목적지인  
 kukan-uy ssah-in iyakilul nanwunun { tongan / sai } pesunun mokcekciin  
 광주 터미널에 도착했다.  
 kwangcwu theminel-ey tochakhayssta  
 それまでの積もる話を交わしているあいだに、バスは目的地のクエンジュターミナルに到着した。

他の後行述部の場合と同様に、達成述部の用例において「동안 tongan」の使用が優先されるのは、その用例において「사이 sai」と共起し難い先行要素が用いられた場合である。

- (27) a. 그러나 전화위복이라 했던가, 박씨는 촬영 기간  
 kulena cenhwawipok-ila haysstenka pakssinun chwal-yeng kikan  
 { 동안 / \*사이 } 또 한번의 기회를 얻는다.  
 { tongan / sai } tto hanpen-uy kihoylul etnunta  
 しかし転禍為福と言うように、パク氏は撮影期間のあいだにもう一度の機会を得る。  
 b. 그러나 전화위복이라 했던가, 박씨는 촬영이 진행되는  
 kulena cenhwawipok-ila haysstenka pakssinun chwal-yengi cinhayngtoynun  
 { ?동안 / 사이 } 또 한번의 기회를 얻는다. (作例)  
 { tongan / sai } tto hanpen-uy kihoylul etnunta  
 しかし転禍為福と言うように、パク氏は撮影が行われるあいだにもう一度の機会を得る。

変化述部は「동안 tongan」および「사이 sai」の両表現と共起可能であるが、(29)のように「동안 tongan」または「사이 sai」のうち一方としか共起しない先行要素が用いられる用例においては、先行要素によってどの表現が用いられるかが決定される。

- (28) 그렇게 연우와 시간을 보내는 동안 / 사이 나 역시 성장하고 있었다.  
 iss-essta  
 そのようにヨンウと時間を過ごすあいだに、私も成長していた。

- (29) a. 처음에는 서툴고 어색하기만 했으나 6개월의 연습 기간 cheum-eynun sethwulko esaykhakiman hayss-una yuk-kaywel-uy yensup kikan 동안 / \*사이 서서히 실력이 붙었다.  
 {tongan / sai} sesehi sillyek-i pwuth-essta  
 始めは不慣れでぎこちなかったが、6カ月の練習期間のあいだ、徐々に実力がついた。
- b. 처음에는 서툴고 어색하기만 했으나 1월에서 6월 cheum-eynun sethwulko esaykhakiman hayss-una il-wel-eyse yuwel \*동안 / 사이 서서히 실력이 붙었다. (作例)  
 {tongan / sai} sesehi sillyek-i pwuth-essta  
 始めは不慣れでぎこちなかったが、1月から6月までのあいだ、徐々に実力がついた。

なお、場合によっては状態述部や活動述部が用いられる用例において「동안 tongan」と「사이 sai」が両方使用可能なこともある。

- (30) 이들은 미성년자였기 때문에 수사와 재판이 진행되는 itul-un misengnyenca-yesski ttaymwun-ey swusawa cayphan-i cinhayngtoynun 동안 / 사이 소년 A 와 소년 B 로 내내 붙었다.  
 {tongan / sai} sonyen-eyiwa sonyenpilo naynay pwullyessta  
 彼らは未成年者だったため、捜査と裁判が行われるあいだ、少年 A、少年 B とずっと呼ばれた。
- (31) 김우중 회장은 결혼식이 진행되는 동안 / 사이 출근 kim-wucwung hoycangun kyelhonsik-i cinhayngtoynun {tongan / sai} cwulkot 담담한 표정으로 아들과 며느리를 응시하고 있었다.  
 tamtamhan phyocengulo atulkwa myenulilul ungsihako iss-essta  
 キム・ウジュン会長は結婚式が行われるあいだ、ずっと淡々とした表情で息子と嫁を凝視していた。

(30) と (31) は、先行要素で表される出来事が後行述部で表される出来事のきっかけとなるという点で共通している。つまり、先行要素の出来事が行われることによって後行述部の状態や動作が始まり、先行要素の出来事が終わると後行述部の状態や動作も終了することが予想されるような文脈である。そのため、(30) の状態述部「불렀다 pwullyessta 呼ばれた」と (31) の活動述部「응시하고 있었다 ungsihako issessta 凝視していた」で表される出来事は、先行要素で表される時間の範囲内では変化を含まないが、その前後の時間と比べると変化が起きるという事実は明らかである。

このようなことから、文脈によって広い意味での変化を含意する用例では、「사이 sai」との共起も可能となるのではないかと考えられる。

一方、達成述部の用例の中でも「사이 sai」と「동안 tongan」の両方と共起する文が存在する。

(32) 쌀 수입이 단계적으로 개방돼 가는 {동안 / 사이} 연간 50만  
 ssal swuip-i tankyeycek-ulo kaypangtway kanun {tongan / sai} yenkan osipman  
 명의 농민들이 농촌을 떠나고 2010년에는 약 20만 명의  
 myenguy nongmintul-i nongchon-ul ttenako ichensipnyen-eynun yak isipman myenguy  
 농민만이 농촌에 남는다.

nongminman-i nongchon-ey namnunnta

米の輸入が段階的に開放されていくあいだ、年間50万人の農民たちが農村を発って、2010年には約20万人の農民だけが農村に残る。

(32) では「떠나고 ttenako 発って」という達成述部が用いられているにも関わらず、「동안 tongan」で時間の幅を表すことが可能であるが、それは「떠나고 ttenako」で表される出来事が反復的な性質を持つためではないかと考えられる。農民の一人一人が農村を発つことは瞬間的に行われる出来事であるが、その農民が複数であるため、「떠나다 ttenata 発つ」という出来事がくり返され、広い意味での継続性を持つようになると言えよう。

つまり、瞬間的な出来事の表す達成述部でも、文脈によって継続性を含意するようになると、「동안 tongan」とも共起することができるようである。

以上の分析で、状態述部と活動述部は「동안 tongan」と共起し易いのにに対し、達成述部は「사이 sai」と共起し易いことが分かった。状態述部と活動述部はそれで表される出来事が瞬間的な変化を含まず、一定の時間の中で均一的に行われるようなものであるという点で共通しており、均一的な出来事が継続して行われることを表す後行述部は「사이 sai」より「동안 tongan」と共起し易いのではないかと考えられる。一方、達成述部はそれが表す出来事において一定の到達点が存在するという点で他の述部と異なっている。言い換えると、達成述部はある状態が実現されるという瞬間的な変化を表す表現であり、「사이 sai」は瞬間的な変化を含む後行述部と共起し易いのではないかと考えられる。

なお、「동안 tongan」と共起し易い後行述部で表される出来事の特徴である「均一

的な出来事の継続」と「사이 sai」と共起し易い後行述部で表される出来事の特徴である「変化の存在」という特性を併せ持つ後行述部、言い換えると「変化の継続」を表すような後行述部は両表現と共起することが可能となると考えると、変化述部や変化の存在を含意する状態述部・活動述部、継続性を含意する達成述部が「동안 tongan」および「사이 sai」の両方の後行述部として用いられる理由が説明できる。

#### 4.3. 「동안 tongan」および「사이 sai」で表される時間的な幅

これまでの分析の結果から見ると、まず「동안 tongan」は、始点と終点が明確でない一定の時間的な幅の中で出来事が継続的に行われることを表す表現である。その出来事とは、後行述部として状態述部が用いられる場合は状態であり、活動述部の場合には動作、変化述部の場合には変化である。また、これらの状態や動作、変化は、時間的な幅の始点と同時に始まり、終点と同時に終わるという特徴を持つ。

このようなことから、「동안 tongan」で表される時間的な幅は次のように図式化される。



図1. 「동안 tongan」で表される時間的な幅

一方「사이 sai」は、始点と終点が明確である一定の時間的な幅の中に瞬間的な変化が存在することを表す。達成述部と共起する際にはその変化が一回であることが一般的であるが、変化述部と共起する際には複数の変化が続けて起きるようなことを表す場合もある。なお、その変化は必ずしも時間の幅の始点と同時に開始し、終点と同時に終了するのではなく、「사이 sai」によっては、時間的な幅の中のある時点で変化が起きるといった情報のみが与えられる。

以上を踏まえ、「사이 sai」で表される時間的な幅を図で表すと次のようになる。

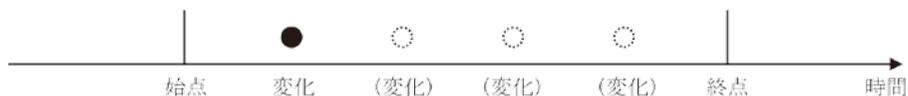


図2. 「사이 sai」で表される時間的な幅

このように「동안 tongan」と「사이 sai」で表される時間的な幅は、始点と終点の明確さと時間的な幅の中で行われる出来事の性質という面に対照的な特徴を持つ。また、その中間的な特徴を持つ時間的な幅を表す場合は、「동안 tongan」と「사이 sai」の両方が使用可能となる。

#### 4.4. 助詞「-에 ey」の付加による「동안 tongan」および「사이 sai」の意味の変化

##### 4.4.1. 助詞「-에 ey」の付加による「동안 tongan」の意味の変化

各用例における「동안에 tongan-ey」の先行要素を分類し、「동안 tongan」の場合と

比べて見ると、大きな変化は見られず、「동안에 tongan-ey」も期間名詞、限定無し数名詞、限定有り数名詞、範囲名詞および動詞・存在詞の는 nun 形・은 1 形と共起することが分かる。

表6. 用例における「동안 tongan」および「동안에 tongan-ey」の先行要素

	名詞					動詞						存在詞			形容詞	指定詞	合計	
	期間	限定無し数	限定有り数	範囲	境界	肯定			否定			肯定						否定
						ㄴ n	는 nun	ㄹ l	ㄴ n	는 nun	ㄹ l	ㄷ ten	는 nun	ㄹ l				
동안 tongan	81 16.2%	175 35.0%	24 4.8%	11 2.2%	-	1 0.2%	196 39.6%	6 1.2%	-	1 0.2%	-	-	3 0.6%	2 0.4%	-	-	-	500 100%
동안에 tongan-ey	99 19.8%	149 29.8%	27 5.4%	7 1.4%	-	-	201 40.2%	7 1.4%	-	2 0.4%	-	-	8 1.6%	-	-	-	-	500 100%

このようなことから、「동안에 tongan-ey」は「동안 tongan」と同様、時間的な幅の始点および終点を明確に表示しないような先行要素と共起し易いと考えられる。

一方、後行述部の場合は、次のように助詞「-에 ey」の付加による変化が著しい。

表7. 用例における「동안 tongan」および「동안에 tongan-ey」の後行述部

	状態述部	活動述部	変化述部	達成述部	合計
동안 tongan	168 33.6%	194 38.8%	65 13.0%	73 14.6%	500 100%
동안에 tongan-ey	41 8.2%	23 4.6%	96 19.2%	340 68.0%	500 100%

「동안 tongan」が状態述部および活動述部と共起し易く、変化述部とも共起するのに対し、「동안에 tongan-ey」の場合は達成述部と共起する割合が非常に高い。

(33) 이것 역시 6월 한달 {?동안 / 동안에} 완성했다.

ikes yeksi yuwel hantal {tongan / tongan-ey} wansenghayssta

これもやはり6月の一ヶ月のあいだに完成した。

それに対し、状態述部と活動述部、変化述部は「동안에 tongan-ey」と共起する割合が低く、次の(34)(35)(36)でも分かるように、「동안에 tongan-ey」と共起する状態述部と活動述部、変化述部は達成述部と類似した性格を持つ。

(34) a. 나도 그러고 있는 {동안 / 동안에} 꽤나 즐거웠다.

nato kuleko issnun {tongan / tongan-ey} kkwayna culkewessta

私もそうしているあいだ、かなり楽しかった。

b. 나도 그러고 있는 {동안 / ?동안에} 즐거웠다. (作例)

nato kuleko issnun {tongan / tongan-ey} culkewessta

私もそうしているあいだ、楽しかった。

- (35) a. 한바퀴 돌아보고 오는 동안 / 동안에 멀리도 달렸다.  
 hanpakhwi tol-apoko onun {tongan / tongan-ey} mellito tallyessta  
 一回り見回ってくるあいだに、遠くまで走った。
- b. 한바퀴 돌아보고 오는 동안 / ?동안에 계속 달렸다. (作例)  
 hanpakhwi tol-apoko onun {tongan / tongan-ey} kyeysok tallyessta  
 一回り見回ってくるあいだ、ずっと走った。

- (36) a. 애들 옷이 겨울 동안 / 동안에 많이 납았으니 장사를  
 aytul os-i kyewul {tongan / tongan-ey} manh-i nalk-ass-uni cangsalsul  
 시킬려면 옷감이라두 떠 와야지.  
 sikhillyemyen oskam-ilatwu tte wa-yaci  
 子供たちの服が冬のあいだにずいぶん古びたから、商売をさせるためには服地でも買ってこなきゃ。
- b. 애들 옷이 겨울 동안 / ?동안에 납았으니 장사를  
 aytul os-i kyewul {tongan / tongan-ey} nalk-ass-uni cangsalsul  
 시킬려면 옷감이라두 떠 와야지. (作例)  
 Sikhillyemyen oskam-ilatwu tte wa-yaci  
 子供たちの服が冬のあいだに古びたから、商売をさせるためには服地でも買ってこなきゃ。

(34)a では状態述部「즐거웠다 culkewessta 楽しかった」に「꽤나 kkwayna かなり」という限度を表す表現が伴われることにより、一定の基準を超えた状態、つまり到達点に達したという意味合いが醸し出される。このような限度表現が用いられない(34)b が不自然であることから、「동안에 tongan-ey」は到達点を含意せず均一的に継続するような状態を表す状態述部とは共起し難いことが分かる。このようなことは(35)の活動述部「달렸다 tallyessta 走った」および(36)の変化述部「납았으니 nalk-ass-uni 古びたから」にも同様に適応され、「멀리도 mellito 遠くまで」「많이 manh-i かなり」によって広い意味での到達点の存在が含意されるような場合には、状態述部や活動述部、変化述部が「동안에 tongan-ey」の後行述部として用いられることが可能となる。

ここまでの分析の結果、「동안에 tongan-ey」は、始点と終点が明確でない一定の時間的な幅の中で、到達点が満たされることを表すということが明らかになった。達成述部と共起する場合はその到達点が満たされる瞬間のみに焦点が当てられるが、その他の述部と共起する際には到達点に至る過程としての状態や動作、変化の進行が言語的に表されることもあると言えよう。

以上をまとめ、「동안에 tongan-ey」で表される時間的な幅を図で表すと次のようになる。

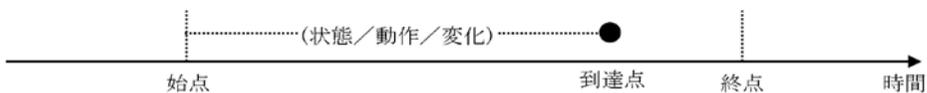


図3. 「동안에 tongan-ey」で表される時間的な幅

「동안 tongan」の場合と比べて見ると、助詞「-에 ey」の付加によって時間的な幅の中で行われる出来事に瞬間性・完了性が加えられることが分かる。ただし、到達点を持たない出来事を表す後行述部が「동안에 tongan-ey」と共起する文でも、自然度は落ちているものの完全に非文ではないものが多いことから、助詞「-에 ey」の付加による意味の変化が絶対的なものではないように思われる。

#### 4.4.2. 助詞「-에 ey」の付加による「사이 sai」の意味の変化

各用例における「사이에 saiey」の先行要素は次のように分類され、限定有り数名詞、範囲名詞、境界名詞、および動詞ㄴ n形・存在詞던 ten形、動詞・存在詞의 nin形と共起し易い「사이 sai」の場合と基本的には類似していることが分かる。

表8. 用例における「사이 sai」および「사이에 saiey」の先行要素

	名詞					動詞						存在詞				形容詞	指定詞	合計
	期間	限定無し数	限定有り数	範囲	境界	肯定			否定			肯定			否定			
						ㄴ n	는 nin	ㄹ l	ㄴ n	는 nin	ㄹ l	던 ten	는 nin	ㄹ l				
사이 sai	6 1.2%	13 2.6%	70 14.0%	50 10.0%	58 11.6%	97 19.4%	179 35.8%	13 2.6%	1 0.2%	2 0.4%	-	2 0.4%	9 1.8%	-	-	-	-	500 100%
사이에 saiey	10 2.0%	44 8.8%	68 13.6%	37 7.4%	34 6.8%	103 20.6%	155 31.0%	27 5.4%	-	13 2.6%	-	-	9 1.8%	-	-	-	-	500 100%

しかし、「사이 sai」とは共起し難い限定無し数名詞の場合、「사이에 saiey」の先行要素としては用いられ易くなる。

(37) 이 시기에는 체중이 한 달 {?사이/사이에} 1kg 이상  
 i sikieynun cheycwungi han tal {sai / saiey} ilkhillokulaym isang  
 늘어난다.  
 nulenanta  
 この時期には体重が1ヶ月のうちに1kg以上増える。

このようなことを考慮しても、「사이에 saiey」は「사이 sai」と同様、「동안 tongan」および「동안에 tongan-ey」に比べ、時間的な幅の始点および終点を明確に表示するような先行要素と共起し易いことが分かる。

なお、各用例における「사이에 saiey」の後行述部の種類は、次のようにまとめられ、「동안에 tongan-ey」の場合と同様、達成述部との共起の割合が高くなっている。

表9. 用例における「사이 sai」および「사이에 saiey」の後行述部

	状態述部	活動述部	変化述部	達成述部	合計
사이 sai	60 12.0%	28 5.6%	153 30.6%	259 51.8%	500 100%
사이에 saiey	9 1.8%	13 2.6%	98 19.6%	380 76.0%	500 100%

- (38) 남은 한 녀석이 놀라서 주춤하는 {사이/사이에} 나는 문을  
 nam-un han nyeseok-i nollase cwuchwumhanun {sai / saiey} nanun mwun-ul  
 벌컥 열었다.  
 pelkhek yel-essta  
 残った一人が驚いてもたもたするあいだに、私は扉をぱっと開けた。

それに対し、状態述部および活動述部、変化述部は「사이 sai」の場合より後行述部として用いられる比率が低くなっている。その上、「동안에 tongan-ey」の場合と同様に、状態述部、活動述部、変化述部が「사이에 saiey」の後行述部として用いられるためには、それで表される状態、動作、変化が一定の到達点を持ち、そこに達したという出来事を表す必要がある。

- (39) a. 행사가 진행되는 {사이/사이에} 한층 더 피로해 보이는  
 hayngsaka cinhayngtoynun {sai / saiey} hanchung te philohay poinun  
 K가 걱정이었다.  
 kheyika kekcengiessta  
 イベントが進められるあいだにもう一層疲れているように見える Kのことが心配だった。

- b.? 행사가 진행되는 {사이/사이에} 피로해 보이는 K가  
 hayngsaka cinhayngtoynun {sai / saiey} philohay poinun kheyika  
 걱정이었다.(作例)  
 kekcengiessta  
 イベントが進められるあいだ、疲れているように見える Kのことが心配だった。

- (40) a. 지난 20여 년 {사이/사이에} 활발히 활동하였으며, 강한  
 cinan isip-ye nyen {sai / saiey} hwalpalhi hwaltongha-yess-umye kanghan  
 인상의 그림을 주로 그렸다.  
 insanguy kulim-ul cwulo kulyessta  
 これまでの20余年のあいだに活発に活動して、強い印象の絵を主に描いた。

- b.? 지난 20여 년 {사이/사이에} 활동하였으며, 강한 인상의  
 cinan isip-ye nyen {sai / saiey} hwaltongha-yess-umye kanghan insanguy  
 그림을 주로 그렸다.(作例)  
 kulim-ul cwulo kulyessta  
 これまでの20余年のあいだ活動して、強い印象の絵を主に描いた。

- (41) a. 최근 10년 {사이/사이에} 지구의 평균기온이 약 2도쯤  
 choykun sipnyen {sai / saiey} cikwuuy phyengkyunkion-i yak itoccum  
 상승했습니다.  
 sangsunghayssupnita

最近の10年のあいだに地球の平均気温が約2度ほど上昇しました。

- b. 최근 10년 {사이 / ?사이에} 지구의 평균기온이  
 choykun sipnyen {sai / saiey} cikwuuy phyengkyunkion-i  
 상승했습니다. (作例)  
 sangsunghaysssupnita  
 最近の10年のあいだに地球の平均気温が上昇しました。

(39)aでは「한층 더 hanchung te もう一層」、(40)aでは「활발히 hwalpalhi 活発に」、(41)aでは「약 2도쯤 yak itoccum 約2度ほど」という表現が、各用例における後行述部で表される出来事に対し、広い意味での到達点を提示しており、その結果、状態述部と活動述部、変化述部でも「사이에 saiey」と共起できるような環境が設けられたのである。

以上をまとめると、「사이에 saiey」は、始点と終点が明確である一定の時間的な幅の中で、到達点が満たされることを表す。その上、「동안에 tongan-ey」と同様、後行述語の性質によって到達点が満たされる瞬間のみが表されるか、到達点に至る過程としての状態や動作、変化の進行まで表されるかが決定される。

これをもとに、「사이에 saiey」で表される時間的な幅を図式化すると次のようになる。

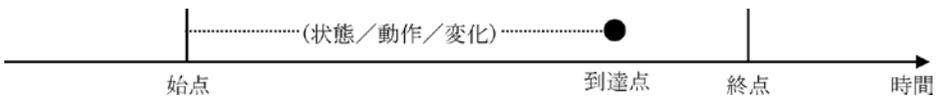


図4. 「사이에 saiey」で表される時間的な幅

「사이 sai」は本来から時間的な幅の中に変化が存在することを表す表現であり、その変化が一回のみ起きる際には「사이에 saiey」の到達点と基本的に同様であるため、「동안 tongan」の場合に比べると助詞「-에 ey」の付加による意味変化がそれほど大きくないように感じられる。ただし、「-에 ey」の付加によって瞬間性・完了性が加えられるため、到達点を持たずに均一な変化が続くような出来事を表す変化述語とは共起し難くなるという点が、「사이 sai」との違いであると言えよう。

## 5. 終わりに

本稿では韓国語の時間的な幅を表す「동안 tongan」および「사이 sai」を対象に、その時間的な幅の境界線の特徴と時間的な幅の中で行われる出来事の特徴を分析し、各表現で表される時間的な幅の特徴を明らかにした上、助詞「-에 ey」の付加によって各表現で表される時間的な幅がどのように変化するかについて考察を行った。

その結果として、「동안 tongan」は、始点と終点が明確でない一定の時間的な幅の中で出来事が継続的に行われることを表し、「사이 sai」は、始点と終点が明確である一定の時間的な幅の中に瞬間的な変化が存在することを表すことが分かった。また、

各表現に助詞「-에 ey」が付加すると、時間的な幅の中で行われる出来事の性質に瞬間性・完了性が加えられ、一定の到達点が達成されることを表し易くなる。

本稿では、各表現の使い分けの基準になると予想される要因の中、先行要素と後行述部の特徴について考察を行ったが、先行要素と後行述部のあいだの時間的な相関関係および意味的な相関関係も各表現の使い分けの基準になり得るのではないかと予想される。今後の研究では、このような先行要素と後行述部のあいだの相関関係について分析する上、先行要素との共起、後行述部との共起、先行要素と後行述部のあいだの相関関係が、どのような優先順位で各表現の使い分けに関わっているかについても考察を行いたい。

## 注

- 1) 本稿では本文中に用いられる韓国語について、韓国語、ハングルのイェール式表記、日本語訳を示す。
- 2) 全ての用例において、非文は「\*」、不自然な文は「?」で表す。言い換えると、文の容認度は「無表示>?>\*」の順になる。なお、本稿で用いられる用例は基本的にコーパスから抽出したものであるが、必要に応じて筆者が作った文を用いることがあり、そのような場合は用例の最後に「作例」と明記する。
- 3) 前に来る名詞が子音で終わる場合は「-이다 ita」の形で、母音で終わる場合には「-다 ta」の形で用いられる。
- 4) 韓国語先行研究での「동안 tongan」および「사이 sai」に関する説明において、「동안 tongan」や「사이 sai」という表現が使われている場合には、文脈に合わせた日本語訳の後に「(←사이 sai)」および「(←동안 tongan)」という表示を付ける。
- 5) 子音語幹用言の場合は「-은 un」の形で、母音および $\equiv$ 1語幹用言の場合は「-ㄴ n」の形で語幹に結合する。
- 6) 子音語幹用言の場合は「-을 ul」の形で、母音および $\equiv$ 1語幹用言の場合は「-ㄹ l」の形で語幹に結合する。
- 7) 本稿では便宜上、「-(으)ㄴ n」の形態を「ㄴ n形」、「-던 ten」の形態を「던 ten形」、「-는 nun」の形態を「는 nun形」、「-(으)ㄹ l」の形態を「ㄹ l形」と呼ぶことにする。なお、動詞 $\equiv$ 1形および存在詞・形容詞・指定詞の던 ten形は過去連体形であり、動詞・存在詞の는 nun形および形容詞・指定詞のㄴ n形は現在連体形、全ての用言のㄹ l形は未来連体形である。
- 8) コーパスから収集した用例において、本来使われていた表現は太字で表す。

## 参考文献

- 국립국어원 国立国語院 (2005), 『외국인을 위한 한국어 문법2 용법편 外国人のための韓国語文法 2 用法編』, 커뮤니케이션북스 コミュニケーションブックス
- 백봉자 벡ボンジャ (2006), 『외국어로서의 한국어 문법사전 外国語としての韓国語文法事典』, 하우출판사 ハウ出版社
- 유현경 ユヒョンギョン (2007), 「'사이', '동안'의 어휘 정보 연구 『사이 sai』, 『동안 tongan』의語彙情報研究」, 『한국어교육 제18권 1호 韓国語教育第18卷1号』, 국제한국어교육학회 國際韓国語学会
- 임홍빈 イムホンビン (1993), 『서울대 임홍빈 교수의 한국어사전 ソウル大イム・ホンビン教授の韓国語辞典』, 랭기지플러스 랑게지플러스
- 한혜정 한헤ジョン (2009), 「유의 표현 '동안' 과 '사이' 에 대한 연구 - 시간 관계 부사절을 중심으로 - 類義表現『동안 tongan』と『사이 sai』に対する研究 -時間関係副詞節を中心に-」, 2009년 한국어언어문화교육학회 제11차 전국학술대회 2009年韓国言語文化教育学会第11次全国學術大會

韓国語の「동안 tongan」と「사이 sai」で表される時間的な幅について

홍달오 ホンダルオ・임홍준 オムホンジュン (2012)、『‘동안’ 과 ‘사이’ 의 의미에 대한 인지언어학적 고찰』『동안 tongan』と『사이 sai』の意味に対する認知言語学的考察』、『언어학 제37권 제3호 言語学第37卷第3号』、한국언어학회 韓国言語学会